

議員定数に関する特別委員会

1. 会議の概要

日 時 平成28年3月16日（水）13:30～14:40

場 所 阿賀野市役所 委員会室

出席議員（特別委員19名、議長1名）

山崎 正春、浅間 信一、遠藤 智子、山口 功位、高橋 幸信、中島 正昭、
倉島 良司、宮脇 雅夫、稲毛 明、江口 卓王、風間 輝栄、雪 正文、
山賀 清一、佐竹 政志、山田 早苗、近山 修、天野 美三男
村上 清彦（委員長）、市川 英敏（副委員長）
石川 恒夫（議長・オブザーバー）

2. テーマ（ワークショップ形式で意見交換）

- ① 若者、女性が挑戦（議員に立候補）できる環境づくり
- ② 市民の声を反映させる取り組みとは
- ③ 委員会のあり方

3. 主な意見

① について

議員報酬が安い。生活が出来るように報酬は引き上げるべき。

議員年金制度がない。復活させるべき。

保障が無いため生活が不安定（4年後の保障がない）。

現状では会社員は無理。

自分の意思表示が難しい。

支援基盤を作ることが出来るかが問題。

若い人は働き盛りで生活を重点。

合併により範囲が広くなり、町内単位では難しい。

政党の支援が無いと立候補出来ない。

挑戦できるだけの見合う条件が必要。

議員活動に集中できない。

男性10人、女性10人と条例で決める。

特例有で60歳定年制の導入。

報酬審議会の意見も十分聞くべきである。

② について

議会報告会を通して徐々に市民の声を反映させていると思う。

議会報告会、議会だより等で改善されてきていると思う。

市民の声を十分聞いて議会はやっている。

③ について

委員会の人数が少ない（7～8人が良い）。

1人が複数の委員会に属するのは幅が広くなり大変。

複数の委員会に所属することも良いのではないか。

常任委員会は現状で良い。

委員会の充実のためには定数増が必要。

改選後に考えていくべき。

4. 定数の方向性

現状維持。ただし人口減少の状況を見ながら考慮する。

定数は住民2000人に1人の割合とし、人口数に比例させる。

減らしても18人が限度。それ以上は減らさない。

5. 今後の進め方

一ヶ月程度の期間、市民からの意見を聴取し、次回開催に市民の意見を交えて議論を進めることとする。

以上